

チャック語の格とその周辺

藤 原 敬 介

要 約

チャック語はバングラデシュ・チッタゴン丘陵でチベット・ビルマ系のチャック人によってはなされるチベット・ビルマ語派ルイ語群に属する言語である。

本稿ではチャック語にみられる主要な格標識を S（自動詞文の主語）、A（他動詞文の主語）、P（他動詞文の目的語）という意味役割にしたがって、まず整理する。そして、場所や時間にかかわる形式を記述する。さらに与格や属格といった意味役割をはたす形式について記述する。場所格が従属節標識に拡張してもちいられうることについてもふれる。最後に、関係名詞による表現について例示する。

チャック語の格標識について特徴的な点としては、(1) 場所格と方向格が同形式である、(2) 共同格と具格が同形式である、(3) 属格の形式は本来的には名詞化標識である、といった点をあげることができる。

キーワード：チャック語、チベット・ビルマ語、格標識、S/A/P の標示、関係名詞

1. はじめに

1.1 チャック語について

チャック語 (Cak)¹⁾ は、バングラデシュ人民共和国・チッタゴン丘陵 (Chittagong Hill Tracts) ・バンドルバン県 (Bandarban district) の南東端に位置するナイキョンチョリ郡 (Naikhyongchari subdistrict) でチャック人によってはなされている言語である (附録の地図参照)。チャック語は、チベット・ビルマ語派 (Tibeto-Burman) のうちルイ語群 (Luish)²⁾ に属する言語である。

チャック語は、ナイキョンチョリ方言とバイシャリ方言に大別することができる。両者にどの程度のちがいがあるかはあきらかではない。ただし、筆者の経験によれば、相互に意思疎通することについては問題がないようである。本稿で記述の対象とするのはバイシャリ方言である。

チャック語についての先行研究としては、筆者によるものをのぞけば、Löffler (1964: バイシャリ方言)、Bernot (1967: バイシャリ方言)、Maggard et al. (2007: ナイキョンチョリ方言、バイシャリ方言、バンドルバン方言) などをあげることができる。いずれも語彙の提示や比較が中心であり、文法的な記述はほとんどない。

チャック人の人口は、バングラデシュ政府による 1991 年の統計 (BBS 2006) によれば 2000 人である。村ごとの人口の詳細はあきらかではないけれども、バイシャリ地区に居住するチャック人は 500 人程度ではないかとおもわれる。

チャック人のほとんどはチャック語を流暢にはなす。バンドルバン地方の共通語であるマルマ語や、バングラデシュの公用語であるバングラ語を話しているチャック人もすくなくない。筆者にチャック語をおしえてくれたオン・トワイン・ギョー・チャックさん (?oŋ thwáin gyo ca?: 1979 生, バイシヤリ出身) もマルマ語とバングラ語に堪能である。作業の媒介言語は、主としてバングラ語である。

本稿ではチャック語の格とその周辺領域について記述することを目的とする。

1.2 チャック語の概要

チャック語の言語的な特徴は以下のとおりである。

- 音素: /p, ph, b, t, th, d, c, ch, j, k, kh, g, ʔ*, ʃ, d, v, s, f, h, m, n, ŋ*, l, r**, w**, y**, i, e, ai(閉音節のみ), a, o, u, i, u, ə/. *は末子音としてもあらわれうるものを, **は子音連続の第二要素としてあらわれるものをしめす。
- 声調: 低調(アクセント記号なし)と高調(鋭アクセント記号 $\acute{}$ でしめす)。
- 音節構造: 一般的には (C₀ə)C₁(C₂)V(C₃)/T
- 基本語順: SOV
- 語類: 名詞類 (名詞, 数詞, 類別詞), 動詞類 (動詞), 副詞類 (副詞), 小辞類 (助詞, 助動詞, 後置詞など)
- 格標示: 主格・対格型
- 概して従属部標示型 (dependent marking)
- 名詞句構造: [指示詞-名詞-複数小辞-形容詞³⁾-数詞-類別詞-後置詞]
- 動詞句構造: [否定辞-動詞-助動詞-述部標識]
- 類別詞の多用
- 多機能な小辞=gá/ká: 名詞化, 関係節, 補文, 未来, 属格標識
- マルマ語からの借用語が多数

チャック語において、一部の小辞は先行する音にしたがって連声をおこす。たとえば目的格や場所格の形式が該当する。本稿では両者の代表形式をそれぞれ=?aŋ, =?a とさだめる。具体例を以下にしめす⁴⁾。

表 1: チャック語の目的格と場所格

環境	目的格	具体例	場所格	具体例
-ʔ,i,u のあと	=?aŋ	ʔátaʔ=?aŋ 「葉を」	=?a	ʔátaʔ=?a 「葉で」
-i,e,iŋ,aŋ のあと	=yaŋ	thiŋ=yaŋ 「村を」	=ya	thiŋ=ya 「村で」
-u,o のあと	=waŋ	nagŋvu=waŋ 「草を」	=wa	nagŋvu=wa 「草で」
-ŋ のあと (-iŋ,aŋ はのぞく)	=ŋaŋ	láj=ŋaŋ 「道を」	=ŋa	láj=ŋa 「道で」
-a のあと	=ŋ	sədá=ŋ 「月を」	=∅	sədá=∅ 「月で」

1.3 表記上の注意

本稿におけるチャック語は筆者による音素表記である⁵⁾。また、本稿であげる例文には出典を明記するようにした⁶⁾。筆者による作例のばあいは、(作例)と表記した。ほか、本稿で使用する記号・略号については本稿末の一覧表を参照。

1.4 本稿の構成

本稿の構成は以下のとおりである。2で本稿で使用する概念を定義する。3で格標示形式の目録を提示する。4でS/A/Pを標示する形式について記述する。5で場所にかかわる意味役割を標示する形式について記述する。6で時間にかかわる意味役割を標示する形式について記述する。7でその他の意味役割を標示する形式について記述する。8で格標識の従属節への拡張について記述する。9で関係名詞について記述する。10で本稿をまとめる。附録として「チャック語がはなされる地域」の地図をつけた。

2. 本稿で使用する概念の定義

本稿では澤田編(2010)による定義にしたがってチャック語における格の記述をおこなう。澤田編(2010)における定義の概要は以下のとおりである。

2.1 格の定義

Blake(1994:1)にしたがい、澤田編(2010:1)は格を(1)のように定義する。

(1) 格: 主要部に対して従属名詞が取る関係のタイプを標示するもの

本稿で記述する格は、語類としては基本的に後置詞に属する。

2.2 S/A/Pの定義

Comrie(1981)に準じて文中の中核的な項を三種類に分類し、S/A/Pを(澤田編 2010:2)は(2)のように定義する。

- (2) a. S: 自動詞の単一項。すなわち(自動詞の)主語。
- b. A: 他動詞の動作主項および文法的にそれと同じ振る舞いをする項、すなわち(他動詞の)主語。
- c. P: 他動詞の被動者および文法的にそれと同じ振る舞いをする項、すなわち目的語。

3. 格標示形式の目録

3.1 格標識

チャック語における主要な格と対応する形式は以下にあげるとおりである⁷⁾。

表 2：チャック語における主要な格と対応形式

形式	格	語釈	本稿であつかう節
—	主格	NOM	4.2.1.1
=ʔaŋ	目的格	OBJ	4.2.1.2
=ʔa	場所格	LOC	5.1.1
=theʔ	接格	ADE	5.1.1
=ʔa	方向格	LOC	5.2
=báŋ/páŋ	奪格	ABL	5.3
=láíʔ	通格	PER	5.4
=jaíŋ/caíŋ	沿格	PROL	5.5
=jǝʔ/cǝʔ	与格	DAT	7.1
=gá/ká	属格	GEN	7.2
=ʔíŋ	共同格	COM	7.3
=ʔíŋ	具格	COM	7.3
=de/te	様態格	ESS	7.4
=doŋma	比格	CMPR	7.5
=dáíʔ/táíʔ	到格	TER	7.6
=kəda	欠格	PRIV	7.7
=gyá/kyá	交換格	EXCH	7.8
—	呼格	VOC	7.9

それぞれの形式には形態音韻的交替⁸⁾や有声交替⁹⁾，変調などによる異形態が散見される¹⁰⁾。

3.2 主格

チャック語の名詞は，しばしば格標識なしであらわれる。格標識をともしない形式を本稿では「主格であらわれる」と表現する。具体的には (3) にあげるような名詞は主格であらわれる。

- (3) a. S (自動詞の主語) / A (他動詞の主語)
 b. P (他動詞の目的語)
 c. 時をあらわす名詞
 d. 類別詞句
 e. 名詞文の述語となる名詞
 f. 呼びかけの対象 (呼格とみとめてもよい) ¹¹⁾

4. S/A/P を標示する格と形式

4.1 S/A を標示する格と形式

チャック語においては、自動詞文でも他動詞文でも主語は格標示されない。すなわち、S も A も無標の主格としてあらわれる。S/A が有生名詞 (4a,b) であるか無生名詞 (5a,b) であるか、自動詞が動態動詞 (6a) であるか状態動詞 (6b) であるか、他動詞が意志動詞 (7a) であるか無意志動詞 (7b) であるかにかかわらず、S/A が格標示されることはない。

- (4) a. kyóŋsá kai? -túŋ =he?.

学生 (S) 走る -CONT =DPRD

学生がはしっている (作例)

- b. kyóŋsá kvu =waŋ po? =he?.

学生 (A) 犬 =OBJ 殴る =DPRD

学生が犬をなぐった (作例)

- (5) a. gari táŋ -túŋ =he?.

車 (S) 止まる -CONT =DPRD

車がとまっている (作例)

- b. gari kvu =waŋ sɔ́dái? =he?.

車 (A) 犬 =OBJ 轢き殺す =DPRD

車が犬を轢き殺した (作例)

- (6) a. kyóŋsá kai? -túŋ =he?.

学生 (S) 走る -CONT =DPRD

学生が走っている (作例)

- b. kyóŋsá ŋa =he?.

学生 (S) 居る =DPRD

学生がいる (作例)

- (7) a. kyóŋsá kvu =waŋ ɓo -dá? =he?.

学生 (A) 犬 =OBJ 見る -立ち去る =DPRD

学生は犬を見かけた (作例)

- b. kyóŋsá kvu =waŋ yu =he?.

学生 (A) 犬 =OBJ 見る =DPRD

学生は犬を見た¹²⁾ (作例)

4.2 P を標示する形式

4.2.1 P が二項他動詞の目的語であるばあい

4.2.1.1 主格

P の有生性や指示性がひくければ主格であられる傾向にある。すなわち、無生名詞 (8a) が主格であられるのはもちろんのこと、有生名詞 (8b) でも指示性がひくければ主格であられる傾向にある。

- (8) a. ʔahróva págadíʔ kaɪŋ súŋ=gá laŋ-bí =gə =héʔ.
夫 (A) また おかず (P) 探 =PURP 行 -再度 =NMLZ =DPRD
夫はまたおかずを探しに行ったのです (怠け者 1)
- b. neʔ, má páiŋfaiʔ =kuʔ byáiŋ ʔá- lu =náŋ.
さて これ 次の日 =TOP アオサギ (P) NEG- 得 =PPRD
さて、この次の日はアオサギをもう捕えられませんでした (怠け者 1)

4.2.1.2 目的格

P の有生性や指示性がたかければ目的格であられる傾向にある。すなわち、無生名詞 (9a) であっても指示性がたかければ目的格で標示され、指示性がひくくても有生名詞 (人間名詞) (9b) であれば目的格で標示されうる。

- (9) a. maŋ =gólú má tú =waŋ táíʔ =koʔ,...
王 (A) =DEF これはなし (P) =OBJ 聞 =SEQ
王はこの話をきいて... (虎の夢)
- b. yaʔ =kuʔ, sərə =ta -bá =ŋ laʔ -ʔa =gə =héʔ.
今日 =TOP 僧 (P) =一 -CL. 人.HON =OBJ 会 -ANDT =NMLZ =DPRD
今日は、一人の僧に出会ったのです (怠け者 1)

4.2.2 P が三項他動詞の目的語であるばあい

三項他動詞の目的語については、直接目的語 (P2) であれば主格で、間接目的語 (P1) であれば与格であられるのが普通である (10a)。ただし、間接目的語が与格のまま直接目的語が目的格であられてもよい (10b)、間接目的語が目的格で直接目的語が主格であってもよい (10c)。

- (10) a. ŋa kola =jɪʔ japani + tú səniŋ =heʔ.
わたし (A) バングラ人 (P1) =DAT 日本 + ことば (P2) 教 =DPRD
わたしはバングラ人(のため)に日本語を教えます(作例)
- b. ŋa kola =jɪʔ japani + tú =waŋ səniŋ =heʔ.
わたし (A) バングラ人 (P1) =DAT 日本 + ことば (P2) =OBJ 教 =DPRD
わたしはバングラ人(のため)に日本語を教えます(作例)

- c. *ŋa kola =ŋ japani + tú səniŋ =he?*.
 わたし (A) バングラ人 (P1) =OBJ 日本 + ことば (P2) 教 =DPRD
 わたしはバングラ人に日本語を教えます(作例)

(10) の諸例は (11) のように、目的格を二重にもちいて表現することもできるという人もいる¹³⁾。

- (11) *ŋa kola =ŋ japani + tú =waŋ səniŋ =he?*.
 1 バングラ人 (P1) =OBJ 日本 + ことば (P2) =OBJ 教 =DPRD
 わたしはバングラ人に日本語を教えます(作例)

5. 場所にかかわる意味役割を標示する形式と格

5.1 位置を標示する形式

5.1.1 基本的な形式

存在場所（場所格）を標示するもっとも典型的な形式は=*ʔa*である。

- (12) *ʔiŋmá práiŋ =ya ...*

それ 国 =LOC

その国に... (王子の兄弟)

有生名詞が先行するばあいには、「(人) のところ」という意味をもつ接格=*theʔ* がもちいられる。

- (13) “*ŋa =theʔ síŋ + kəyaʔ bú + kəyaʔ ŋa =he?*”
 わたし =ADE 生 + 扇 腐 + 扇 存 =DPRD
 「わたしのところに生の扇と腐の扇があります」(老ニシキヘビの王)
 =*theʔ* とおなじようにもちいられるものに=*thóneʔ* がある¹⁴⁾。

- (14) “*...ŋa =thóneʔ hwáŋ ciŋ =laŋ =gá.*”

わたし =ADE 許し 求 =行 =NMLZ

「... わたしに許しをもとめただろう」(自伝)

なお、=*theʔ* も=*thóneʔ* も受身的な表現において動作主をあらわすためにももちいられる。

- (15) *má kvu =theʔ/thóneʔ ʔa- káiŋ -ja =ciŋ yaʔ -taiʔ, ...*
 これ 犬 =ADE PRF.PASS- 噛 -PASS =求 CL. 日 -時
 この犬にかまれた日に、... (自伝:改変)

5.1.2 場所名詞との複合

=ʔa は、場所にかかわるさまざまな名詞とむすびついて、空間的な位置を標示する。接頭辞 ʔa/ʔá- が省略された形式のほうがおおいものは (ʔa)/(ʔá)- としてしめた。

- (16) a. 「外で」=(ʔa)práŋ=ŋa
 b. 「中で」=(ʔá)toŋ=ŋa, =ʔátoŋhúŋ=ŋa, =ʔatéthwáŋ=ŋa
 c. 「上で」=(ʔa)phúŋ=ŋa
 d. 「下で」=(ʔá)muʔ=ʔa
 e. 「真ん中で・間で」=ʔatəlú=wa
 f. 「後で」=(ʔá)lo=wa
 g. 「前で」=ʔáthəna=∅

名詞単独での用法がないものとしては、(17) にしめすようなものがある。

- (17) a. 「方で」=ní=ya
 b. 「あたりで」=ná=∅, =káŋná=∅¹⁵⁾, =dóŋ=ŋa¹⁶⁾
 c. 「～のうちに」=gwaŋ=ŋa

5.2 着点を標示する形式

移動動詞の着点（方向格）を標示する形式は、典型的には、場所格の形式としてももちいられる=ʔa である。

- (18) kúŋ=ya laŋ=gə =héʔ =láíʔ.

家 =LOC 行 =NMLZ =DPRD =HS

家に行ったのだそうです（ある農夫）

人間名詞が先行するばあいには、「(人) のところ」という意味をもつ接格=theʔ がもちいられる。

- (19) ʔiŋmá ʔakəməŋ =theʔ laŋ=heʔ.

それ 死体 =ADE 行 =DPRD

その死体のところに行きました（バカ）

5.3 起点を標示する形式

起点を標示するもっとも基本的な形式は、場所格の=ʔa に奪格の=báŋ/páŋ がついた形式である¹⁷⁾。

- (20) má taiŋdu =wa =báŋ...

これ おはなし =LOC =ABL

このおはなしから, ... (ニワトリと猫:改変)

=báj/páj と形式的に関係があるものとして、=bóʔíj¹⁸)や=bájma, bájma=ʔíj, =bómá, =bómóni がある。いずれも場所がかかわるので、場所格の=ʔa に後続する。

- (21) ... ʔahróva págədíʔ thiŋ =ya =bóʔíj pru -kólaŋ =gə =héʔ.
夫 また 村 =LOC=ABL 現 -PERF.ANDT =NMLZ =DPRD
... 夫はふたたび村からでていったのです (詐欺師 1)

- (22) “məlaiʔ =ʔa =bájma vaiŋ =gə =húʔ” ʔá =goʔ.
海 =LOC=ABL 来 =NMLZ =SPRD QUOT. 言 =SEQ
「海から来たのです」と (井の中の蛙)

- (23) ʔaráiŋ phraiʔ =heʔ, kíj =ya =bájma =ʔíj pru -kóʔaiŋ =gə =héʔ =láiʔ.
喧嘩 成 =DPRD 家 =LOC=ABL =COM 現 -PERF.VEN =NMLZ =DPRD =HS
喧嘩になって、家からでてきたのだそうです (よいひと)

- (24) ʔáŋsi =ʔa =bómá ʔásəməjáiʔ pri =heʔ =yá, pri =heʔ =ká cúʔraʔ máiŋ -fo
口 =LOC=ABL COL. どのような言 =DPRD =COL.Q 言 =DPRD =NMLZ すべて 正 -義務
=heʔ.
=DPRD
口からいうものは、どのようにいうのであれ、すべてただしくなければなりませんでした
(虹)

- (25) yaʔ =ká ʔácaʔ -raʔ ʔadəlaŋ ʔásəma =bómóni vaiŋ -laŋ =gá =yá, ...
今日 =GEN チャック人 -PL 本当 どこ =ABL 来 -過去 =NMLZ =Q
今日のチャック人が本当にどこからきたのか... (三人)

他動詞が述部にくるばあいにはのみもちいられる標識として=gáj/káj¹⁹)や theʔ=káj, thóneʔ=káj がある。

- (26) ʔáma pesi =ʔa =gáj ʔúku =hvú -wa phríŋbəbáj ʔí la =góʔ, ...
3 川 =LOC=から 水がめ =CL. 個 -一 満ちた 水 連 =SEQ
彼は川から水がめいっぱい水をもって、... (王と大臣の息子)

- (27) “... naŋ =gá pənáiŋ =theʔ =káŋ ciŋ =góʔ, ʔu -wa.”
2 =GEN 姉 =ADE =から 求 =SEQ 飲 -ANDT
「... あなたのお姉さんからたのんで飲んでください」 (詐欺師 2)

- (28) ʔáma ʔísa =thóneʔ =káŋ vaiŋ ciŋ =gə =héʔ.
3 老女 =ADE =から 火 求 =NMLZ =DPRD
彼は老女から火をもとめたのです (力持ち)

5.4 通格

経由点は=láiʔ で標示される。

- (29) má maŋ =gá túŋ -həráŋ =láíʔ.

これ 王 =GEN 居 -場所 =PER

この王のいる場所をとおって（クラインマテ王）

意味的には手段をあらわすこともある。

- (30) beláʔ + pháʔ =láíʔ ʔálo kəjáiŋ -hoŋ =heʔ.

左(手) + 側 =PER 尻 洗 -適当 =DPRD

左手の側でおしりをあらうこともできる（怠け者 2）

5.5 沿格

「～にそって・～にしたがって」という意味は=jaiŋ/caiŋ で標示される。

- (31) má kráiʔ + si pesi =jaiŋ cu -gyó -laŋ =gə =héʔ.

これ マンゴー + 実 川 =PROL 流 -同行 -過去 =NMLZ =DPRD

このマンゴーの実は川 [の流れ] にしたがって流れていったのです（怠け者 2）

6. 時間にかかわる意味役割を標示する形式と格

6.1 特定の時点を示す標識

場所をあらわす=ʔa は、特定の時点を示すばあいにももちいられる。

- (32) ʔáŋgəlíʔ + sáʔkráiʔ təthóŋ + kó -ra + khənáiʔ -che =náʔ kó -khúʔ =ʔa, ...

イギリス + 暦 千 + 九 -百 + 七 -十 =と 九 -年 =LOC

西暦 1979 年に...（自伝）

6.2 特定の時点が起点となることを標示する標識

時間的な意味で起点をあらわす形式としては、=bán/páŋ や=bóʔíŋ/póʔíŋ, =bájma/pájma, =bómá/pómá, =bómóni/pómóni といったものがある。いずれの形式でも場所格の標示は不要となるようである。

代表例を以下にあげる。

- (33) yaʔ =páŋ ŋa laŋ =gá.

今日 =ABL 1 行 =FUT

今日からわたしが行こう（作例）

6.3 特定の時点よりも後を示す標識

時間的に「後で」という意味をあらわす形式は欠格の=bade である²⁰⁾。

- (34) “bélu -raʔ súŋ -sədá =bade =ji haʔ -ta vaiŋ =heʔ.”

鬼 -PL 三 -CL. 月 =PRIV =ごとに CL. 回 -一 来 =DPRD

「鬼たちは三ヶ月ごとに一度来ます」（王子と鬼女）

7. その他の格

7.1 与格

与格の標識である=jíʔ/cíʔ は、典型的には利害にかかわる名詞句につく。

(35) “... naŋ ʔa =jíʔ ʔí la =gá ...”

2 1 =DAT 水 とる =PURP

「... お前がわたしのために水をとりに...」(仙人と愛)

無生名詞につくばあいには、時をあらわす名詞句に対して限定的につかわれる傾向がある。

(36) “yaʔ yaʔ -ta =jíʔ hóng =phroʔ -ʔaiŋ =dáiʔ.”

今日 CL. 日 -一 =DAT 許し =放す -BEN.VEN =IMP

「今日一日だけはゆるしてください」(占い師)

7.2 属格

チャック語で属格をあらわす=gá/káは、さまざまな用法をもつ小辞である²¹⁾。典型的には、**A=gá/ká B** の形式でもちいられて、「A が所有する B」、「A の B」という意味をあらわす。

(37) ... ʔáma =gá ʔatéhvú -waʔ =ká kíŋ =ya.

3 =GEN 叔父叔母 -PL =GEN 家 =LOC

... 彼の叔父叔母の家へ (怠け者 2)

属格をはさんで名詞句が同格的にもちいられる例も散見される。

(38) niŋyaʔ =ká ʔácaʔ -raʔ mǝlá ʔásəmí vaiŋ -laŋ =heʔ =yá, ...

1.PL =GEN チャック人 -PL 以前 どのように 来 -過去 =DPRD =Q

わたしたちチャック人が以前どのようにきたか、... (三人)

属格の=gá/káは、場所格の=ʔa のあとにあらわれうる。

(39) “ʔa paŋle =ʔatǝlú =wa =gá ʔí + siŋ =poʔ -ta ʔu -kaʔ =heʔ,”

1 海 =真中 =LOC =GEN 水 + 冷 =CL. 杯 -一 飲 -欲 =DPRD

「わたしは海の中の冷たい水を一杯のみたいです」(鬼)

7.2.1 意味上の主語

属格小辞=gá/káに先行する名詞句が、文の意味上の主語となることがある。そのようなばあいには、文の主語ではなく、節の主語に限定される²²⁾。

(40) ʔáma =gá yúŋyúŋsa vaiŋ =heʔ =ká =ŋ ʃo =góʔ, ...

3 =GEN ゆっくりと 来 =DPRD =NMLZ =OBJ 見 =SEQ

彼がゆっくりと来るのを見て、... (バカ)

7.2.2 所有表現

属格小辞=*gá/ká*の直前にある名詞句(A)が, =*gá/ká*の直後にある名詞句(B)の所有者をあらわすことから, A=*gá/ká* B *ŋa* (居)で「AがBをもっている」, 「AにはBがある」という意味をあらわしうる。この構文においては, =*gá/ká*の母音が弱化することはないようである。チャック語における所有表現は, 一般にこの形式をとる²³⁾。

- (41) *má mǝŋnáŋ =gá sǝmu? =súŋ -ta ŋa -laŋ =he?*

これ 夫婦 =GEN 牛 =三 -CL. 匹 居-過去=DPRD

この夫婦の牛が三頭いました(この夫婦には牛が三頭いました)(詐欺師1)

所有関係をあらわすにもかかわらず, 属格が形式的にはあらわれないことがある。これは複合名詞の一種とかがえうる。ただし, ふつうの複合名詞とことなる点は, 前部要素が人称代名詞で, 後部要素の名詞が主要部になる例にかぎられている点である。なお, 人称代名詞の属格用法においては, 母音が弱化することがすくないようである。

- (42) “*ŋa + yúŋco? =?aŋ, yúŋco?ba =ŋ la? =he? =lé?*”

1 + (人名) =OBJ (人名) =OBJ 会 =DPRD =PQ

「わたしのユンチョッパー²⁴⁾に会いましたか」(虹)

- (43) “*?o, naŋ + ?ula =gu? ?ásǝmí =gá ?ula =yá, nǝku?, ?í.*”

INTERJ 2 + 雄鶏=TOP どのような=NMLZ 雄鶏=Q さて 老女.VOC

「オー, あなたのオンドリはなんというオンドリなのでしょう, おばあさん」(老ニシキヘビの王)

- (44) *?áma + kǝsúŋ ?ásǝmǝjái? ŋá =he? =yá ŋá =ne?, ...*

3 + 主人 どのように 言 =DPRD =Q 言 =COND

彼の主人がなんといったかといえば, ... (カロ・ボシャ兄弟)

(42)の例に対しては, 属格のはいった形式も確認されている。両者は自由変異であると推定される。

- (45) “*?o, bǝhrí? bǝhrí?, ŋa =gá yúŋco? =?aŋ la? =he? =lé?*”

INTERJ 山鳩 山鳩 1 =GEN (人名) =OBJ 会 =DPRD =PQ

「オー, 山鳩さん山鳩さん, わたしのユンチョッパーに会いましたか」(虹)

7.3 共同格・具格

共同格および具格をあらわす標識は=*?íŋ*である。

「AとB」という共同格をあらわす用法には, (46a) A=*?íŋ* B, (46b) A=*?íŋ* B=*?íŋ*, (46c) A=*?íŋ* ri=*gó?* B という三種類の表現方法がある。

- (46) a. ?ísa =?íŋ ?u?sa ?aráŋ phrai? =kó? ʒo =gə =hé?.
 老女 =COM 老人 喧嘩 なる =SEQ 見 =NMLZ =DPRD
 老女と老人が喧嘩になっているのを見たのです (バカ)
- b. ne?, ?áma -ra?, má nəpyáŋbú =?íŋ má maŋ =gá ?ásə?i? =?íŋ ...
 さて 3 -PL これ 怠け者 =COM これ 王 =GEN 娘 =COM
 さて、彼ら、この怠け者とこの王の娘とは... (怠け者 1)
- c. má ?akəmaŋ =?íŋ ri =gó? ?áma =me ...
 これ 死体 =COM する =SEQ 3 =EMPH
 この死体と彼だけが... (バカ)

道具や手段をあらわす具格としての例を (47) にあげる。

- (47) ne?, má ?akəmaŋ =ŋaŋ má bəsi =?íŋ tho? =he?, ...
 さてこれ 死体 =OBJ これ 釣竿 =COM ひっかく =DPRD
 さて、この死体を、この釣竿でもってひっかき、... (バカ)
- =?íŋ には目的格の=ŋaŋ が後続する例も確認されている²⁵⁾。

- (48) ?oŋfwi =?íŋ má təsəloŋsa =?íŋ =yaŋ lá?thái? =ká hrai? =kə =hé? =láí?.
 (人名) =COM これ 少女 =COM =OBJ 結婚.(他) =NMLZ 落 =NMLZ =DPRD =HS
 オンシュイーとこの少女とを結婚させることになったのだそうです (妖怪と結婚)

7.4 様態格

様態格は=de/te で標示される。

- (49) ?áyu -wa? =táŋ =ŋu? ?áca? -ra? =te nətoŋ + buləliŋ =yaŋ saiŋ =he? =láí?.
 誰 -PL =EMPH =も チャック人 -PL =ESS 耳輪 + 大 =OBJ 嵌 =DPRD =HS
 誰それ²⁶⁾ かもチャック人のように大きな耳輪をしているそうです (チャック人)

時間をあらわす表現では名詞化の=gá/káが先行する傾向にあるようである。

- (50) ?átai? =ká =de ri =gó?, ...
 今 =NMLZ =ESS する =SEQ
 このようにして、... (だますアオサギ)

=de/te には意味的にも形式的にも関係がある形式が二種類確認されている。=dəle/təle と=dəní/təní である。=dəle/təle は名詞句につく傾向にある。他方、=dəní/təní については動詞句が名詞化した節につく例しか確認されていない。

- (51) “naŋ ?ása =ri =gá má =dəle thwai? =kó? kəji?kəjúi =ri -túŋ =gá =yá?”
 2 何 =する =PURP これ =ESS ひっかく =SEQ 汚 =する -CONT =NMLZ =Q
 「君はどうしてこのようにひっかいて汚くしているのですか」 (バカ)

- (52) maŋ má maiŋsa =gá ŋá =he? =ká =dǝní lá?sa ?o =gó?, ...

王 これ おとこ =GEN 言 =DPRD =NMLZ =ESS 床屋 呼 =SEQ

王はその²⁷⁾おとこのことばのとおりに、床屋をよんで... (力持ち)

7.5 比格

比較の基準点は=dɔŋma で標示される。

- (53) “khrɔŋsí =dɔŋma ŋa =gá tǝhoŋ pri =he?”

ライオン =CMPR 1 =GEN 力 多 =DPRD

「ライオンよりもわたしの力は大きい」(豚とライオン)

類別詞をもちいた慣用的ないいまわしを (54) にあげる。

- (54) ya? -ta =dɔŋma ya? -ta kriŋ -gyó -waiŋ =gǝ =hé? =láí?.

CL. 日 -一 =CMPR CL. 日 -一 瘦 -同行 -BEN.VEN =NMLZ =DPRD =HS

日に日にやせていったのだそうです (クラインマテ王)

7.6 到格

到達点は=dáí?/tái? で標示される。空間的 (55a) にも時間的 (55b) にももちいられる。また、程度をあらわすこともできる (55c)。

- (55) a. “ʔantú, ʔantú, ʔátǝhvú =dáí? thu? -ʔaŋ =náíŋ.”

母 母 膝 =TER 届 -完遂 =PPRD

「母さん、母さん、もうひざまできてしまった」(ニシキヘビと結婚)

- b. lé ŋá + dáíŋ =dáí? sǝniŋ =gó? ...

四 五 + クラス =TER 学 =SEQ

四、五学年まで学んで、... (二つの花)

- c. “naŋ =gá tanga có =gá =dáí?, ʔi -na? -ʔaiŋ =gǝ =hú?”

2 =GEN お金 欲 =NMLZ =TER 与 -徹底 -BEN.VEN =NMLZ =SPRD

「お前にお金が必要なだけ、あたえよう」(二つの花)

=dáí?/tái? は=ʔíŋ (=COM) とともにもちいられることがある。

- (56) ... má kǝhvú + maŋ =ŋaŋ ʔápǝna =gá tǝhoŋ ŋa =gá =dáí? =ʔíŋ po? =kǝ =hé? =láí?.

これ 蛇 + 王 =OBJ 自分 =GEN 力 存 =NMLZ =TER =COM 殴 =NMLZ =DPRD =HS

... その蛇の王を自分の力のあらんかぎりです殴ったのだそうです (力持ち)

=dáí?/tái? には、様態をあらわす接尾辞 .sa がつく例も確認されている²⁸⁾。

- (57) ... ʔáma maiŋdǝra =ʔíŋ púfǝkaŋ =dáí? .sa phrai? -kǝlaŋ =gǝ =hé? =láí?.

3 呪文 =COM 蟻 =TER 様態 成 -PERF.ANDT =NMLZ =DPRD =HS

... 彼は呪文で蟻のようにまでちいさくなってしまったのだそうです (妖精)

=tái?/dái? とかわりがある形式として=tái?thíがある。ただし、限界や程度の意味でしかもちいられないようである。

(58) ?áca? + basa ?ása =tái?thí ŋú? =ko? túŋ =he? =yá?

チャック人 + 民族 何 =TER 沈 =SEQ 居 =DPRD =Q

チャック人はどれくらいまで沈んでいるか (チャックの歌 1)

7.7 欠格

欠如は=kəda で標示される。

(59) ?ama -ra? =kəda =yu? ?áyo?ka ?amyúmyú =gá pu =?a ?ára? ?i =he?.

3 -PL =PRIV =も さらに いろいろ =GEN 祭 =LOC 酒 与 =DPRD

それら以外にもさらにいろいろな祭で酒をあたえます (チャック人のたべもの)

=bade=gó? にも「～をのぞいて」という意味がある。

(60) “?iŋmá =∅ ŋa =?iŋ máŋsəmi =?iŋ =bade =gó? hú -wa =yu? ?a- túŋ -bo =bu?

それ =LOC 1 =COM 王女 =COM =のぞいて =SEQ CL. 人 -一 =も NEG- 居 -義務 =NEG.PRD =ká.”

=FUT

「そこにはわたしと王女以外にはだれもいてはいけません」(王と大臣の息子)

7.8 交換格

交換の意味は=gyá/kyáで標示される。

(61) “má səmu? =?aŋ mərf =gəlú vaiŋ =nəku?, ta -ra =∅ khró? + thoŋ =gyá súŋ -ta

これ 牛 =OBJ 買 =DEF 来 =COND CL. 匹 -一 =LOC 六 + 千 =EXCH 三 -CL. 匹 =∅ tə + sóŋ + fái? + thoŋ lu =nəku?, ?áŋe -kədvu -laŋ.”

=LOC 一 + 万 + 八 + 千 得 =COND 売 -撃 -IMP. 行

「この牛を買う人がきたら、一頭六千で、三頭一万八千でならば、売ってしまいなさい」

(詐欺師 1)

7.9 呼格

人間に対する呼びかけにしかもちいられない語が少数存在する。それらの語は呼格専用の形式とかがえることができる。(62) のような例がある。

(62) a. 「父」 ?avá (NOM) vs. ?avú (VOC)

b. 「老婆」 ?ísa (NOM) vs. ?í (VOC)

8. 従属節への拡張

場所格をあらわす=*ʔa* は従属的要素をみちびくばあいにもちいられることがある²⁹⁾。ただし、確認されているかぎりでは、場所格が動詞に直接付加することはない。何らかの要素を介して付加する。次の例が従属節の標識であるとかんがえる根拠は、=*lo=wa* に先行する動詞に名詞化の=*gá/ká*がついて名詞化せず、動詞のままであることによる。

(63) *sí -kəlaŋ =lo =wa, pesi, ʔi ʔá- loʔ =má siʔ -kəlaŋ =heʔ.*

死 -PERF.ANDT =後 =LOC 川 水 NEG- 解.(他) =まで 乾 -PERF.ANDT =DPRD

死んでしまった後から、川は、水をのこさないほどにかわいていってしまいました(虹)

9. 関係名詞

名詞そのものとしての用法はほとんどないけれども、先行する名詞とむすびついてさまざまな意味役割を標示する一連の語がある。これを Starosta (1985) にならい、関係名詞とよぶ³⁰⁾。

9.1 時をあらわす

=*bəwá=∅* や=*kəlá=∅* は時をあらわす関係名詞に場所格の=*ʔa* がついたものである。いずれも名詞化標識の=*gá/ká*によって名詞化した動詞句に接続する。=*bəwá*は本来は「人生」という意味をもつマルマ語であり、=*kəlá*は「時」をあらわすインド・アーリア語である。チャック語としては場所格をともなつて、時をあらわす表現のなかでもちいられることがおおい。

(64) *le thwaiŋ -túŋ =gá bəwá=∅, maŋ =gá kíŋ =ya =bóní, púʔ + práiʔ kaiŋ + práiʔ ʔi*
田 耕 -継続 =NMLZ 時 =LOC 王 -GEN 家 =LOC =ABL ご飯 + 腐 おかず + 腐 与
=*heʔ.*

=DPRD

耕作している時、王の家から、腐ったご飯、腐ったおかずを与えました(カロ・ボシャ兄弟)

(65) *ciŋ =heʔ =ká =kəlá=∅, páiŋthiŋ ʔáməliŋ =yaŋ kəda =heʔ.*

求 =DPRD =NMLZ =時 =LOC 鍛冶屋 3.PL =OBJ 尋 =DPRD

もとめたときに、鍛冶屋はかれらにたずねました(虹)

9.2 原因・理由をあらわす

原因・理由をあらわす関係として=*dəloŋ/təloŋ* がある。

(66) *má =de =gá =dəloŋ, ʔáma vaiŋ =heʔ =ká.*

これ =ESS =NMLZ =理由で 3 来 =DPRD =NMLZ

このようなわけで、彼は来たのです(作例)

「理由」を意味する名詞 ?akróŋ あるいは ?áca に=?íŋ (=COM) がついた形式もよくもちいら
れる。

(67) má ?akróŋ=?íŋ səgrəmáj pú? ?atáŋ -yaiŋ =gá.

これ 理由 =COM インドラ神 ご飯 もてなす -BEN.VEN =FUT

この理由で、インドラ神はご飯をふるまう (妖精)

(68) “... má maiŋsa ?áma =ŋ =me ?avá ?o -waiŋ =he? =ká ?áca=?íŋ, lá?thái?

これ こども 3 =OBJ =EMPH 父 呼 -BEN.VEN =DPRD =NMLZ 理由 =COM 結婚

+ mangəla=ri -fo =gə =hé?,”

+ よい =する -義務 =NMLZ =DPRD

「... このこどもはあいつだけをお父さんと呼んできたので、結婚させないといけない」 (怠
け者 1)

?akróŋ に目的格の=?aŋ がつくと、「理由」をあらわすというよりは、「～について」という意
味をもつようになる。類似した意味をもつものとして (?a)rə=yəŋ という形式も確認されている。

(69) má probóŋdho=wa ?áca? =?íŋ =ri =gó? ca?máj -ŋa? =ká ?akróŋ=yəŋ =me

これ 論文 =LOC チャック =COM =する =SEQ チャクマ -PL =GEN 理由 =OBJ =EMPH

?ámu?=?a cí?sa rwé -yaiŋ =gá.

下 =LOC すこし 書 -BEN.VEN =FUT

この論文ではチャックとチャクマの関係について以下にすこし書きましょう (チャックと
チャクマ)

(70) niŋya? ?átai? ?áca?basa =ré =yəŋ la =gó?, ?á? -ta níŋ-?á?. pri=gá.

1.PL 今 チャック人=関係=OBJ 連=SEQ CL. ことば 一 二 -CL. ことば 言 =FUT

わたしたちは今、チャック人について、ひとつふたつ話をしましょう (三人; 改変)

9.3 その他の意味役割

「～にしたがって」という意味をあらわす関係名詞として=(?a)dáŋ/(?a)táŋ がある。

(71) ... ?áca? -ra? thúnjaŋ=táŋ ?akəmáj cwái? -fo =he?.

チャック人 -PL 規則 =したがって 死体 葬 -義務 =DPRD

... チャック人たちはきまりにしたがって死体を葬らないといけません (死体)

「～と交換で」という意味をあらわす関係名詞として (?a)háŋ がある。

(72) pəlú?si=gá =(?a)háŋ? krái?si sa=gá.

オクラ =GEN =かわり マンゴー 食 =FUT

オクラと交換でマンゴーを食べよう (作例)

10. おわりに

以上、本稿ではチャック語における主要な格標示形式を提示し、具体的な例文とともに記述した。格標識とよく似た機能をはたすものとして、関係名詞もとりあげた。

チャック語はSとAが格標示されることがなく、Pが目的格で標示されうるところから、典型的な主格・対格型の言語であることがわかった。チャック語においては、場所格と方向格、共同格と具格の融合がみられた。また、本来的には名詞化標識に由来する小辞が属格標識としてももちいられる点に特徴があるといえる。

今後はテキストの収集を通じて関係名詞をさらに発掘していくことが必要である。また、周辺言語と比較することにより、チャック語にみられた格の融合がチャック語に特有なものであるのか、地域的な特徴といえるようなものであるかを考察していくことが、重要な課題としてのこされている。

記号・略号一覧

- 接辞境界; = 接語境界; 1 一人称; 2 二人称; 3 三人称; ABL 奪格; ADE 接格; ANDV 去辞 (「いって～する」); BEN 利害; CL 類別詞; CMPR 比格; COM 共同格; COND 条件; CONT 継続; DAT 与格; DEF 定辞; DPRD 動態述部標識; EMPH 強調; ESS 様態格; EXCH 交換格; FUT 未来; GEN 属格; HON 尊敬; HS 伝聞; IMP 命令; INTERJ 間投詞; LOC 場所格; NEG 否定; NMLZ 名詞化標識; NOM 主格; OBJ 目的格; PASS 受身; PER 通格; PERF 完了; PL 複数; PPRD 完了述部標識; PQ 決定疑問標識; PRF 接頭辞; PRIV 欠格; PROL 沿格; PURP 目的; Q 疑問標識; QUOT 引用; SEQ 継起; SPRD 状態述部標識; TER 到格; TOP 主題; VEN 来辞 (「きて～する」); VOC 呼格

附録・チャック語がはなされる地域

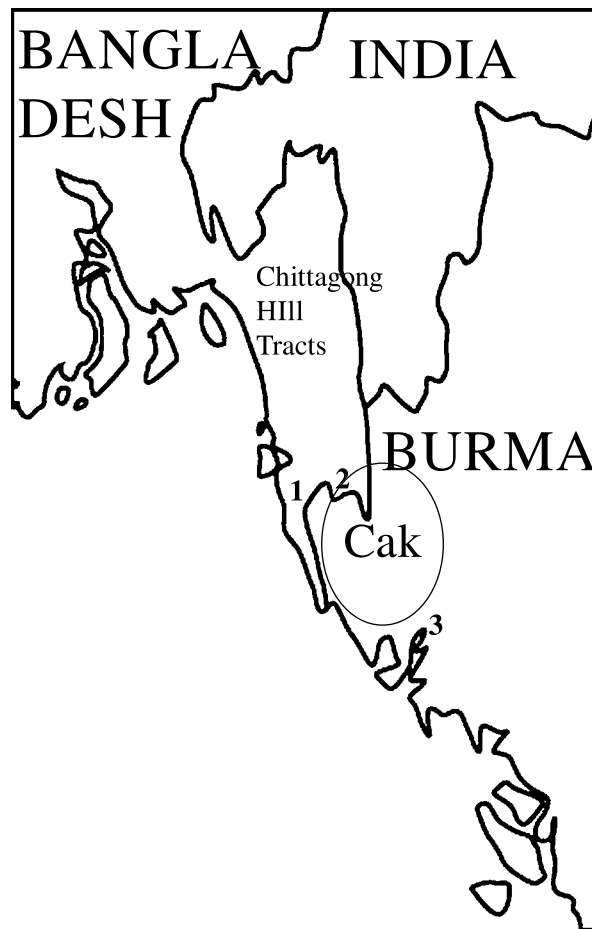


図 1：チャック語がはなされる地域

1: Cox's Bazar, 2: Naikhyongchari, 3: Sittwe

注

*本稿は藤原（2008）のうち「第 12 章後置詞」を澤田編（2010）に準じて再構成したものである。藤原（2008）での記述は後置詞の語形を重視したものであったのに対し、本稿での記述は格の意味役割を重視したものとなっている。再構成にともない、チャック語の表記や語釈におおくの変更をくわえている。また、紙幅の都合で多数の用例を割愛し、他言語にみられる同源形式への言及も削除した。

なお、本稿は松下国際財団研究助成（課題番号 09-120）および科学研究費補助金（課題番号 22720155）による研究成果の一部である。

- 1) チャック語はサック語（Sak）ともよばれる。「チャック」という名称は、自称である [ʔatsaʔ] をバンドルバン地方（後述）の共通語であるマルマ語（Marma: ビルマ語アラカン方言の変種）における他称 θaʔ に由来する。さらに「サック」は古代ビルマ語碑文

- にあらわれる民族名 Sak と関係するともかんがえられている（たとえば Luce 1985）。
- 2) ルイ語群に属する言語としては、インド・マニプール州のアンドロ語（Andro）やセンマイ語（Sengmai）、ビルマ・ザガイン管区のカドゥー語（Kadu）やガナン語（Ganan）がしられる。いずれの言語についても、ほとんど資料がない状態である。なお、アンドロ人やセンマイ人は現在ではマニプール州の公用語であるメイティ語（Meithei）をはなしているという（van Driem 2001: 570, Burling 2003: 178）。カドゥー語とガナン語については、筆者が調査中である。
 - 3) チャック語には語類としては「形容詞」は存在しない。「形容詞」に相当する語は、名詞または動詞に分類される。「形容詞」という術語は簡便であるから使用した。
 - 4) 目的格の=ʔaŋ とまったく音形をおなじくするものに助動詞の-ʔaŋ, 場所格の=ʔa とまったく音形をおなじくするものに助動詞の-ʔa がある。ただし、これらの格標識と助動詞の形式がおなじであることに何らかの意味があるかどうかは不明である。
 - 5) 藤原（2008）では語末の a が弱化してəになるばあい、əで表記していた。本稿では弱化しない形式のまま表記する。
 - 6) 本稿であつかうチャック語資料は、すべて筆者自身が収集した一次資料である。資料の大半はチャック語の民話である。それらの民話には、内容に即して筆者が題名をつけた。ここでいう出典とは、筆者が収集した民話資料につけた題名を略したものである。具体的には、例文の日本語訳のあとに、（怠け者 1）や（虹）といった形式で略して題名をしめした。
 - 7) 同一の形式に対して複数の用法があるばあいでも、語釈は主要な用法に対応したものにした。たとえば=ʔa という形式には場所格としての用法と方向格としての用法がある。本稿では場所格の用法を基本的な用法ととらえ、=ʔa という形式に対して一貫して LOC という語釈をつけた。同様に、=ʔiŋ に対しては一貫して COM という語釈をつけた。また、ひとつの基本形式から派生しておなじような意味をあらわす派生形式に対しては、基本形式とおなじ語釈をつけた。たとえば奪格の=báj/páj から派生した=báŋmá/páŋmáにも ABL と語釈をつけた。
 - 8) チャック語の小辞のなかには、先行する語の末尾音に同化して語頭子音を変化させるものがある。この変化を形態音韻の交替とよぶ。具体例は表 1 にしめしたとおりである。
 - 9) チャック語の小辞における語頭の無気閉鎖音は、声門閉鎖音のあとでは無声音で、その他の環境では有声音であられる。本稿では両方の形式を併記する。たとえば起点格は=báj/páj とあらわす。ただし、紙幅の都合により、具体例は有声音の形式のみをあげていることがほとんどである。
 - 10) 本稿では紙幅の都合により代表的な形式のみをあげる。種々の異形態については藤原（2008: 第 12 章）において網羅的にあげられている。
 - 11) 7.9 で後述するように、名詞のなかには呼びかけ語としてのみもちいられるものがある。そのような形式は完全に呼格とみとめる。
 - 12) 日本語で「見る」に相当するチャック語には 6o と yu の二種類がある。6o には動作主の意志性がなく、yu には意志性がある。たとえば「見なさい」という意味の命令文を yu=wáj ということはできる（=wáj は命令文であることをしめすもっとも一般的な標識）。しかし、6o=wáj ということはできない。
 - 13) P2 に目的格の標識がつくのは、つかないばあいと比較してより指示性がたかいばあいではないかと推定される。
 - 14) =tháne? のうち tháの部分は=the? が弱化したものであると推定される。ne? の部分の来源は不明である。
 - 15) 用例をみるかぎり、先行するのは「森、川、海、田んぼ」など、自然にかかわるものが圧倒的におおい。
 - 16) かならず=gá/ká（NMLZ または GEN）が先行する。
 - 17) ある名詞に複数の格形式が付加する条件は原則として二種類にかぎられている。ひとつは、かならず場所格がついた名詞を要求する格形式がもちいられるばあいである。このときは、場所格とともに起点をあらわす格などがもちいられる。これは、インド・ヨーロッパ語における前置詞の格支配ににている。すなわち、チャック語の場所格はより接辞的であり独立性がひくく、場所格を要求する格形式はより名詞的であり独立性がたかい。もうひとつは、共同格の=ʔiŋ が奪格の=báŋmá/páŋmáまたは到格の=dáiʔ/táiʔ に付加するばあいであり、例外的なものともかんがえる。具体例はそれぞれ（23）と（56）を参照。
 - 18) =báj が弱化して=bóとなったものに=ʔiŋ (=COM) がついたものであると推定される。

- 19) この形式は本来的には名詞化の=gá/káに目的格の=?aŋがついたものであると推定される。述部に他動詞しかあらわれないのがその傍証である。
- 20) =bade は本来的にはバングラ語 *bade* (のぞいて) からの借用語である。マルマ語にも=badé (=のぞいて) という形式がある。バングラ語からの借用語であることの傍証としては、有声交替をしめさないという事実もあげられる。=bade には、=bade=gó? となる派生形式もある。=bade=gó? の意味は「～のぞいて」であり、バングラ語やマルマ語における本来的な意味と一致する。ところで、=go? (=SEQ) の直前にくるのは一般的には動詞である。だから、=bade は動詞であると解釈すべきかもしれない。ただし、=bade が動詞ならば助動詞や述部標識が付加しうるはずである。しかし、そのような例は確認されていない。だから、動詞であるとはかんがえない。
- 21) =gá/káは本来的には名詞化をあらわす標識である。属格としての用法のほか、名詞修飾標識、接続をあらわす従属節標識、未来をあらわす述部標識などとしても機能する。詳細は藤原 (2008: 第 29 章) を参照。
- 22) Masica (1991: 346–356) にしめされるように、インド・アーリア語においては、さまざまな種類の与格主語構文が存在する。バングラ語も例外ではない。ただし、バングラ語においては、ほかのインド・アーリア語では与格があらわれるところで属格があらわれる傾向にある。
- 23) Masica (1991: 348–349) にしめされるように、類似した特徴はバングラ語などのインド・アーリア語にもみられる。他方、マルマ語における所有表現では、一般に場所格がもちいられる。
- 24) yúŋco? は yúŋco?ba を短縮した形式である。
- 25) 用例をみるかぎりでは、=?íŋ に=yay が後続するのは、A=?íŋ (ri=gó?) B=?íŋ=yay という形式にかぎられる。対句的な表現であるために、=?íŋ が二重に使用されているものとかんがえられる。
- 26) 疑問語「誰」は不特定のひとをあらわすためにもちいられうる。
- 27) máは直接指示をあらわす指示語である。基本的にはコ系の指示語として訳す。ただし文脈指示的用法においては、ソ系で訳したほうがわかりやすい。
- 28) 接尾辞がつきうるので、=dái?/tái? は格標識ではなく名詞そのものであるという可能性がある。
- 29) チベット・ビルマ諸語において場所をあらわす後置詞が従属節をみちびく標識ともなる点については Genetti (1991) を参照。
- 30) 本稿でとりあげる関係名詞と格標識のちがいは、名詞化標識の=gá/káが先行しうるかどうかという点にある。すなわち、先行しうるものを関係名詞、先行することがないものを格標識とかんがえる。

参考文献

【日本語文献】

- 澤田英夫編(さわだ・ひでお). 2010. 『チベット=ビルマ系言語の文法現象 1: 格とその周辺』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 藤原敬介(ふじわら・けいすけ). 2008. 『チャック語の記述言語学的研究』京都大学大学院文学研究科博士論文。

【その他の言語の文献】

- BBS (Bangladesh Bureau of Statistics) (ed.) 2006. *Statistical Pocketbook of Bangladesh 2004*. Statistic Division, Ministry of Planning, Government of the People's Republic of Bangladesh.
- BERNOT, Lucien. 1967. *Les Cak: Contribution à l'étude ethnographique d'une population de langue loi*. Paris: Éditions du Centre National de la Recherche Scientifique.
- BLAKE, Barry K. 1994. *Case*. Cambridge: Cambridge University Press.
- BURLING, Robbins. 2003. The Tibeto-Burman languages of Northeastern India. In THURGOOD, Graham & Randy J. LAPOLLA (eds.), *The Sino-Tibetan Languages*, 169–191. London: Routledge.
- COMRIE, Bernard. 1981. *Language universals and linguistic typology*. London: Basil Blackwell.
- GENETTI, Carol. 1991. From Postposition to Subordinator in Newari. In TRAUGOTT, Elizabeth Closs and Bernd HEINE (eds.), *Approaches to Grammaticalization*, Volume II, *Focus on Types of Grammatical Markers*, 227–255. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

- LÖFFLER, Lorenz G. 1964. Chakma und Sak: ethnolinguistische Beiträge zur Geschichte eines Kulturvolkes. *Internationales Archiv für Ethnographie* 50(1): 72–115.
- LUCE, G. H. 1985. *Phases of Pre-Pagán Burma: Languages and History*, vol. I, II. Oxford: Oxford University Press.
- MAGGARD, Loren, Mridul SANGMA and Sayed AHMAD. 2007. *The Chak of Bangladesh: A Sociolinguistic Study*. Dhaka: SIL Bangladesh.
- MASICA, Colin P. 1991. *The Indo-Aryan languages*. Cambridge: Cambridge University Press. (paperback edition 1993)
- STAROSTA, Stanley. 1985. Relator nouns as a source of case inflection. In ACSON, Veneeta Z. and Richard L. LEED (eds.), *For Gordon H. Fairbanks*, 111–133. Honolulu: University of Hawaii Press.
- VAN DRIEM, George. 2001. *Languages of the Himalayas: An Ethnolinguistic Handbook of the Greater Himalayan Region*. volume I, II. Leiden: Brill.

Case Markers in Cak and Related Matters

Keisuke HUZIWARA

Abstract

Cak is a Luish language of Tibeto-Burman language family and spoken by Cak people in the Chittagong Hill Tracts of Bangladesh.

In this paper, based on my own data, an overview of case-marking system for S (intransitive subject), A (transitive subject) and P (transitive object) is first presented. Various case markers which are related to time and spaces are demonstrated. Case markers, such as the dative marker, the genitive marker etc., are also described with ample example sentences. Use of the locative marker as the subordinate marker is then discussed. Finally, expressions by relator nouns are shown in some detail.

Characteristics of Cak case markers are (1) syncretism of the locative and the allative case marker, (2) syncretism of the comitative and instrumental case marker and (3) the nominalizer as the genitive marker.

Keywords: Cak, Tibeto-Burman languages, case markers, case markings for S/A/P, relator nouns